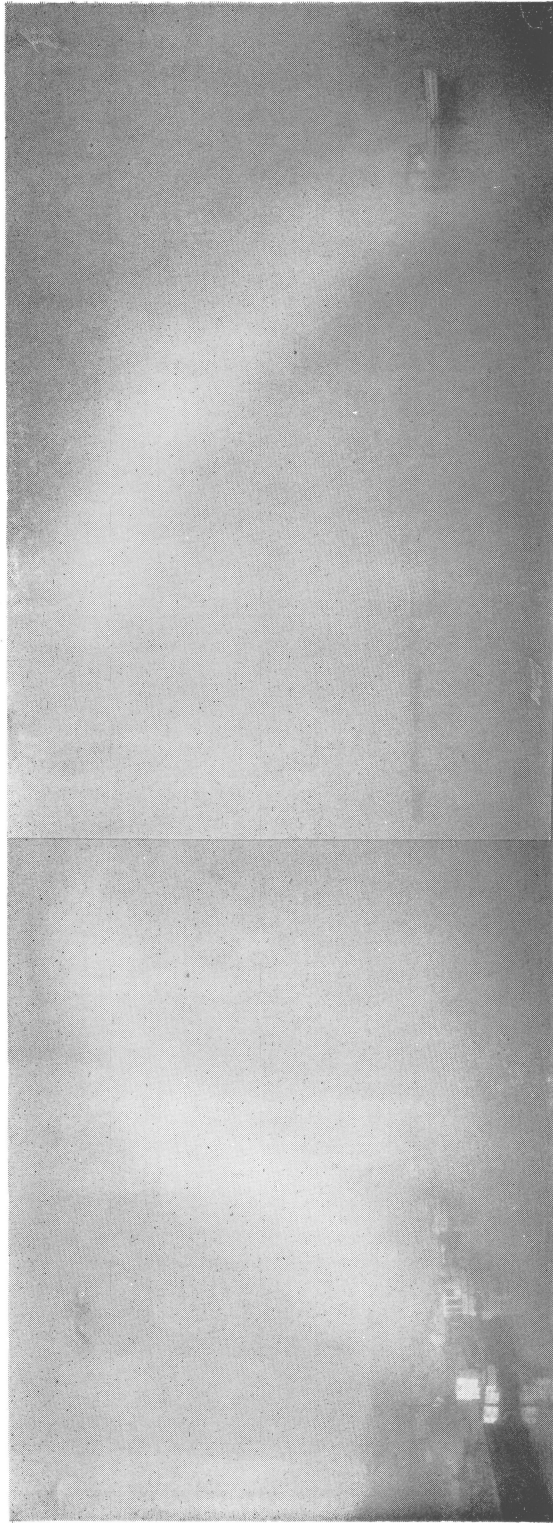


霧 虹

来 海 徹 一*



霧に虹が出ることは気象学の教科書には書いてあるが、霧日数が年間34日を教える松江でも非常に珍しい現象である。

昭和37年3月10日の朝、大橋川にさしかかると、一面の濃い霧のほかに、白い虹がかげ橋のようにかかっていた。この川は穴道瀬と中海を結んでほぼ東西に流れており、一般に霧はこの川筋にそって最も濃い。

虹は白色で明るさは一様でなく、全体としても

明るさは変化していた。やがて太陽高度が高くなるにつれて霧は薄くなり、虹も消えていった。

「半径が30μより小さい水滴の場合には対日点から37°~40°一般の第1次虹の半径は約42°、第2次虹の半径は52°位の距離に縁がわずかに色づいた幅広い白帯がでさる。これを霧虹 (fogbow) という。」(気象の辞典より)

松江地方気象台での記事は

≡°0230—≡°0550—≡°(50)0625—≡°10650—≡°0

0800—≡°0820—0840.

(写真のデーター)

07時50分、新大橋より西を望む

キヤノン、フィルムター: Y₁, フィルム: ASA

100, 絞: 8, シャッター: 1/125秒, レンズキ

ヤノン 35mm

* 松江地方気象台